

官版
日耳曼史略
五

洋学文庫
文庫8
E237
5

文庫8
E 237
5



明治七年十月

日耳曼史畧

文部省

日耳曼史畧卷五

後藤達三 譯

第十四編

啡哩特三世之事

自紀元千四百十年至千四百九十三年

問啡哩特三世之性質如何ナルヤ

答啡哩特三世ハ在位最モ長カリシカ性質鄙

吝或ル記者ノ嘲説ノ如ク臣下ヲ愛顧スルヨ

リ寧ロ己ノ菜園ニ注意スルノ多シ是ヲ以テ

人心大ニ離ル雖然帝只善行ナキ耳ニレテ惡

日耳曼史畧

卷五

文部省

人ト云フニハ非ス

問 啡哩特初メ何故ニ即位ヲ嫌ヒシヤ

答 啡哩特自ラ即位ヲ嫌ヒシハ他ニ非ス一旦
位ニ即ケハ己レノ欲セサル事務ニテ我カ愛
スルコトヲ去ノ嫌ヒ有ル故ト又一ツハ當時帝
タル者ノ資給甚タ薄ク帝位ニ登ルルハ費用
夥多ナル故必ス従前自有ノ財ヲモ損耗セサ
サルヲ得サルトニヨレリ

問 歐洲ニテ書籍ヲ印行スル術ノ起リハ何頃ナ

ルヤ

答 印行ノ術初メテ歐洲ニ叛リシハ即チ啡哩
特即位ノ第二年ニ在リ而シテ此時ヲ以テ人ノ
將サニ心記ス可キ時世トス然ルニ斯ル尚ノ
可キ術藝創造ノ年月始造者ノ姓名始設ノ土
地等今ニ於テ一定ノ説ナシ
問 印書架ヲ初メテ設立シタルハ何人ニシテ又
其地ハ何處ナルヤ
答 傳ヘ言フ古代ノ印書架初メテ設立アリシ

ハ即チノンツストラスブルグニシテ其時ノ
 書匠ハ二人ノ日人ナリ一ヲホースト一ヲグ
 ウテンフルグト云フ是ヨリ前キニ世ニ書籍
 乏シク且ツ價ヒ貴キヲ以テ人民學問ヲ為ス
 一難ク歐洲ノ全戸ヲ算スルニ文明ノ學者甚
 タ少ナリ故ニ印書架設立ノ年記ヲ實ニ歐洲
 開化ノ秋ト稱スルヲ得可シ
 已ニシテ學校ノ設立アリシヲ以テ富人ノ景
 況稍ク進歩ノ地位ニ赴キケリ然ルニ當時未

タ書籍乏キ故少年輩皆諸般ノ學科ヲ唯口授
 ノミニテ傳習セリサレトモ憶フニ學問ヲ為
 スニ最モ有功ノ方法ト言フハ各書ヲ取ツテ
 之レヲ看讀スルノ利ニ若ク者無シ故ニ味哩
 特ノ頃日人印書ノ道ヲ開キシ後歐洲一般教
 導ノ方法大ニ進ミ實行ニ於テモ又タ大イニ
 裨益有シナリ即是ヲ以テ其利ヲ證ス可シ
 問貴族一般貧困ニ至リシハ何故ナルヤ
 答貴族ノ貧困ニ赴キタルハ他ニ非ス其頃遺

領相續ニ付キ土地分配ノ法未タ止サルニ依
レリギユウクコオントバロン等ノ貴族其數
次第ニ増シ其富次第ニ薄クナリ縱令ニ僅カ
ニ一畝ノ地ト雖モ分ツ可キモノアレハ少長
ノ差別ナク之レヲ與ヘ又タ之レヲ受テ取ル
者一家ヲ創立シテ父ト其家号ヲ異ニセス且
ツ此者等ノ領スル所口僅小ニシテ其居宅ハ
岡陵ノ破堡ノ如ク荒レ果テタルモノト雖モ
其身分上ニ於テハ父ニ劣ラヌモノト思ヒ井

タリシナリ

問此小族ノ營生ノ為方如何ナルヤ

答總テ前ノ如ク小族ノ生計ヲ營ム專ラ劔戟

ニ在リテ常ニ大國王侯ノ軍事ニ雇ハレ兵士
トナリシ者ト云フ

問貴族ノ貧窮ニヨリ農民ノ利益ヲ得タルハ何
故ナルヤ

答貴族衰ヘ農民富ミタル故ハ前ノ如ク貴族
其數ノ殖エルニ從ツテ之レカ菜地狹小トナ

リ後ニハ己レノ生計ヲ營ミ難キ貧困ニ至リ
已ムヲ得ス土地ヲ農民ニ販賣シ農民之レヲ
得テ己レノ所有地ニ合セテ小地主トナリタ
レハナリ

問皇帝ト恒加利人トノ戦争如何ニ起リテ其歸
結如何ナリシヤ

答此頃壤地利亞ノ世嗣レジラス帝啡哩特ノ
ノ許ニ養ハレ年稍ク長セリ然レニ波蘭恒加
利ノ總國主土耳其トノ戦ニ死シタルヲ以テ

恒人レジラスヲ迎ヘテ其遺領ヲ継カシメ
ントス然レモ皇帝之レヲ照管スル間タハレ
シラスノ給^{キヤウ}知ヨリ得ル所^{コウケン}口ノ利少カラサ
ル故拒ンテ之レヲ還ヘサス恒人ハ帝ノ其請
ニ應セサルヲ憤リ忽チ戦争ニ及ヒ強ヒテレ
シラスヲ奪ヒブラグニ誘引シ立テ恒加利
及ヒ波希米亞二國ノ國主トナシタリ
然ルニレジラス兼繼ノ後自ラ甚ク民望ヲ
失セリ其故ハ王少年ノ血氣ニ任セ自負ノ心

ヲ生シ已ニ日恒ニ國ノ人民惟タ王ノ故ヲ以
テ戦争ヲ起シタルニ依リ其躬ヲ世ニ貴重ナ
ルモノトノミ思ヒタ佞令王ニ卓絶ノ器量アル
トモ未タ國人ノ之レヲ知得シタル者ナキト
又國人ノ王ヲ推尊シタル所以ハ全ク先君阿
爾斐ノ男タルニ依レル等ノ下ヲ毫モ顧思セ
サルヨリ出タリ

問レシスラスノ在位幾何ナルヤ

答レシスラスノ在位僅カニ七年ニシテ死ス

於是テ帝啡哩特ハ理ニ於テ之レカ遺領ヲ收
領ス可キ當然ノ者タリ

問誰カレジスラスニ繼キ恒加利并ニ波希米亞
ヲ領セシヤ

答已ニ皇帝恒波ニ國ニ於テ民心ヲ得サルヲ
以テ波人ハ舊時ノ攝政タル軍務總督ホシブ
レツトヲ選ミ又タ恒人ハ前キニ土耳其トノ
戦争ニ勳功ヲ顯ハシタル恒國ノ名將ジヨン
ヒユニアドスノ男メシアスヲ舉ケタリ

問啡哩特與地利亞諸領ヲ盡ク收領セシヤ

荅啡哩特ノ弟ニ阿爾斐ナル者アリテ頃日與

地利亞ノ諸國恒波其外ヲ云フ奪領セシカ帝素ト

勢カアラサルヲ以テ之レト雌雄ヲ一戦ニ決

スルヲ欲セス其摠領地ヲ失フヲ甘シタル故

今肯テ與國ノ諸領ヲ防キ或ハ回復セントノ

企アルヲ無シ

問啡哩特貪慾ニシテ更ラニ志氣ナキヲノ實證

アリヤ

荅啡哩特志氣ナク且ツ貪慾ナル實ニ甚シク

帝恒波二國人民ノ已レニ心服セサルヲ察

シ恒國ノ王位ヲ以テホジブレツトニ波國ノ

王位ヲ以テノジアスニ販賣シ鉅萬ノ金錢ヲ

得テ以テ満足ト思フニ至ル

問啡哩特ノ世ニ恒波波蘭三國ノ合作如何ニ成

就マシヤ

荅啡哩特三世祖落ノ前已ニ三國ノ領主悉ク

死シタルヲ以テ國人波蘭ノ王子レジスラス

死シタルヲ以テ國人波蘭ノ王子レジスラス

ヲ立テ國君ニ選ヒシ故初メテ波蘭ニ恒波ニ國ヲ併ヒタリ

問マキシミアンハ如何ナル人ニシテ此君誰ヲ嫁リタルヤ

答マキシミアンハ啡哩特ノ男ニシテブルゴンジイ佛國ノ國主查爾斯ノ女ナルマリイト言フ富ル嗣女ヲ娶レリ是レニ由テ己ニ日國ヨリ分レタル國々アリト雖モ又タ日國ニ増加シタル國々アリ

問查爾斯ハ如何ナル國君タルマ

答マリイノ父查爾スハブルゴンジイニ於テ有名ノ人君ニシテ佛蘭西路易十一世ノ對敵ナリ又タ當時獨立國トナリタル瑞典ヲ其幕下ニ屬セントテ戦争ニ及ヒシガ不幸ニシテ戦歿シタリ

問前ノ婚姻何故日國ニ至重ノ關係ヲ生シタルヤ

答マリイハ查爾スノ一子ナルヲ以テブルゴ

ンジイ所括諸領ノ嗣女タリ其兼繼ノ土地殆
 ント佛全國ニ減セサル廣大ヲナス是レニ由
 テ佛王路易十一世之レト婚ミテ今尚ハ八歳ノ
 幼稚ナル息男ニ妻シメントセシカマリイハ
 親ヲノ擇ミニテ日國ノマキシミアンノ方
 へ嫁シタリ

爰ニ説アリマキシミアンハ資性恬澹常ニ
 預備ノ心薄ク金錢ニ乏シク婚姻ノ時ニ臨ン
 テ鹿惡ノ衣裳ヲ穿チケレハ新婦之レヲ見テ

大イニ其躬ニ取テ稍上品ノモノヲ以テ供給
 有ヘシトテ許多ノ金錢ヲ贈リシト

問佛國ト日國トノ戦争何ニ由リテ起リシヤ

答佛王路易ハマリイノ佛國ヲ嫌ヒ日國ト婚
 姻ヲ結ヒタルヲ憤リ查爾斯ノ諸領ハ固ヨリ
 女嗣ニテ繼受ス可カラサル佛國ノ附庸タル
 故悉ク佛國ニテ領ス可キヲ口實トシテブル
 ゴンシイハ勿論其他查爾斯ノ領地ニテ佛
 國ノ中ニ在ルモノヲ残りナク奪ヒ取リタリ

然レ佛王マリイノ領地ニイゼルランド尼達蘭及ヒフラン
 デルノ二國ノミハ奪フ能ハサリシ然ルニマ
 キシミリアン婚成ノ後路易ト戦ヒ其妻ノ舊
 領ヲハ殆ント回復ニ及ヒタリ
 問當時ニ在リタル大檢出ハ如何ナルモノタル

答當時西班牙王斐爾南多非爾難多王妃依撒伯爾朝廷
 ニ並ヒ立チテ政事ヲ視タル頃口不世出ノ豪
 傑ヲ出キリ之レヲコロンボス哥隆波ヤサール隆波ハサルシニ
 其身

卑我ノ者ナリシカ少シテ豪邁志氣アリ
 元千四百七十一年造其名世ニ知ラレサリ
 此時其弟バルゾロメウナハヤ都府
 リスポンニ在リテ作ル者ナリ
 テ其地ニ抵リテ居スル處ニテ人ヲ
 レエロトイヘテ同船將女ヲ娶リテ
 行海圖ヲ得シカ即航海ノ目的ヲ達スル
 トナリ是ヨリ数年ノ間カメリヤス
 ラリアソウ島及ヒ西洲ノ諸海岸ニ
 到リ此頃哥隆波初メ大外ニ諸陸
 現夫スルヲ考ヘ初メ大外ニ諸陸
 エ夫レセテ荒唐不稽ノ和黨ニ相セシ
 人者無シ是如ク海外ノ國ニ採ス
 ル世ニ其前夫ヲ用ヒテ王ニ採ス
 シカ王ニ其夫ヲ用ヒテ王ニ採ス
 ノ臣下ニ其夫ヲ用ヒテ王ニ採ス
 刑到リ始メテ其宿意ヲ達スル
 十

皇皇史略 卷五 十

ト云フ此人夫志ヲ發シ海外ニ航海スルノ企
テアリテ是造世ニ知ラレサル大西洋ニ始テ
船ヲ汎ヘ渺茫無邊ノ海上ニ自ラ奮ツテ先導
セリ時ニ非爾難多三世ノ死去ノ前ナリ故ニ
日國メキシミアン即位ノ頃ニハ已ニ西方
ニ亞墨利加大洲ノ現在セシトテ歐洲ノ人始
メテ知ルトトハナレリ

問日國ニ於テ千四百年代ニ更ラニ研究シタル
學科ハ何ニナルヤ

答當時日國ニ於テ學者ノ最モ好ンテ講習セ

シ學科ハ化學即チアルケミイ化學ノ原名ニ

シテ煉金アストロミイ天文学及ヒ星學等ナリ

問如何ナル著目ニテアルケミイノ術ヲ學ヒタ
ルヤ

答當時長生不死ノ煉丹ヲ修製スルヲ得可
キト信スル人多クアリテ其製藥ノ方術ヲ知
ラントテ許多ノ試験ニ終身區々セシ者アリ
又タ此學科ヲ學フ者ノ中ニ或ル學者ハ僊者

ノ石ト稱シテ下品ノ金屬ヲ以テ純金ニ變化
スル製藥アリトシテ勉メテ之レヲ檢出セシ
トセリ然ルニ當代ノ碩學博識ト雖モ斯ル異
常ノモノヲ各檢出シタル無シ

問煉金術ヲ學ンテ如何ナル利益ヲ得タルヤ
答長生不死ノ煉丹ノ如キハ素ヨリ之レヲ索
メテ得ヘキノ理ナキニ斯ル虛妄ノ事ヲ當時
學者ノ信仰セシハ實ニ疑フ可キナカラ是
學術ニテ專ラ萬物ノ解合ヲ試驗シタルニ依

ツテ次第ニ真ノ化學ヲ發起スル基礎トハナ
レリ

此學科ノ後世ニ進路シタル小ハ以テ白洋布
ニサヤサカタ華文ヲ印行シ大ハ以テ街衢ニ氣燈ヲ設ク
ル如キ有用尚フヘキ利益ヲ今日ニ傳ヘ得ル
フトナリタリ

此頃多ク天文學者勉メテ天文ヲ察シ天体ノ
運轉ニツキテノ異事ヲ考定推究シタル故ニ
矇昧ノ學問ヲ變シテ著明ノモノトナシ且ツ

皇朝通志
卷五

故事

天文學ニ付キ虚妄ノ考ヘヨリシテ遂ニ星學
ノ正理ヲ啟發スルヲ助ケシトナリ
僊者ノ石及ヒ其他煉金術ノ異ヲ覓メントシ
タル事ヨリ自然人智ノ及ハサル不思議ノ怪
カノ實ニ有ルトトスルニ至リ邪法ヲ信スル
ト一般トナリ殊ニ啡哩特三世ハ已ニ惡キ金
属ヲ正金ニ變化スルヲ得可キトノ考ヘラ
起セリ是レヲ以テ帝ノ甚タ奇怪ノ術ヲ好ミ
タルヲ見ルニ足ル可シ且ツ帝メキシミリア

ニハ其臣ニコル子リウス、アクリッパ、ト云フ書
記官有リシカ此人博學ニシテ殊ニ煉金術ニ
長シタル故ニ普ク邪法ノ達人ト思ハレシト
佛王フランシス一世其他諸王ノ如キ深ク天
文學ヲ信仰シタル故嘗テアグリッパノ盛名ヲ
聞キ知リタレハ聘ヲ厚ウシテ宮中ニ招キ只
管之レニ請フテ将来ニ發見ス可キ事ヲ逐一
知リ究メント欲セシカ固ヨリアグリッパハ斯

皇朝通志
卷五

三

ル異常ノ術ヲ施ス者ニアラサレハ敢テ其請
 ヒニ應ヘス佛王大ニアグリッハノ意中ヲ疑ヒ
 之レヲ為スノ學カアリト雖氏嫌ヒテ之レヲ
 修セサルモノナラント思ヒ百方請求セシカ
 トモ悉ク徒ラ事トナリタル故佛王遂ヒニ其
 罪ヲ咎メアグリッハヲ宮中ヨリ放チ還シタリ
 記者曰前條ノ如キ頗ル虛無ノ談ニ涉レルハ
 讀者ヲシテ諸藝學問ノ稍ク進歩ニ至ラント
 ストモ本ト是レ異端虛無ヲ雜ヘ屢空妄ナル

トニカヲ費ス少カラサリシヲ知ラシメ且ツ
 人民次第ニ道理ヲ鑑ミ之レヲ事物ノ上ニ參
 考スルトト世ニ發起スル總テノ事ハ其由来
 ヲ尋ヌレハ必ス自然ノ原因ヨリ起ラサルモ
 ノ無キトテ理會セシメントス且ツ此頃ニ至
 リテモ尚世間ノ矇昧ナリシハ世界ノ極根ニ
 於テ絶タ不分明ナルヲ以テ其甚シキヲ推知
 ス可シ然ルニ果敢剛強ノ一俊傑ナル哥隆波
 當時ニ起リテ千古未曾有ノ大檢出アリテ大

イニ世人ノ耳目ヲ驚カセリ
此發明ノ以前ハ未タ海外ノ方向並ニ洲島等
ノ在ル所ヲ知ラサルヲ見レハ往時ノ如ク邪
法ヲ信シ虚妄ノ念ヲ起シ又大洋ノ外ニハ我
カ世界ノ人類ト全ク異リタル人種ノ居住ス
ル一ツノ世界アラナト憶ヒ井タリシハ實
ニ已ムヲ得サルノ事ニシテ異シム可キニ非
ス然ルニ哥隆波ノ檢出ト其後航海ノ進歩ア
リシトニヨリテ僅カ一二年ヲ出テスシテ世

界ノ中何レノ處トシテ舟楫ノ到ル能ハサル
地ナク且ツ世界ノ中別ニ神仙奇恠ノ地ナキ
トヲ人皆知ルヲ得テ是迄ノ雲霧一時ニ散ス
ルトトハナレリ

第十五編

メキシミアン一世ノ事
紀元千四百九十三年ヨリ千
五百十九年ニ至ル

問中古人民ノ景况一變セシハ何ニ由ルヤ
答中古天下ノ形勢一變セシ原故数多アリ就

中火藥ノ發明ヲ以テ大ナルモノトス日耳曼ノ如キハ殊ニ殘暴ノ風アルヲ以テ國ノ形勢ノ變化シタル他邦ニ比スレハ最モ大ナリ此國ニテハ貴族ノ私戦ヲナス事ハ往古考フ可カラサル頃ヨリ其躬ニ属シテ離レサル特權ノ一ツト考ヘ迭ヒニ干戈ヲ接ユルハ勿論時トシユハ帝ニ敵スルモ又憚ルヲナシ總テ日國ニテハ他國ト違臣民叛シテ不臣ノ所為ニ及ト雖モ謀反ノ景情ト思ハサリシトナリ

問皇帝へ對シ貴族戦ヒヲ挑撥スル普通ノ為方如何ナルヤ

答當時貴族ノ帝ニ對シ戦ヒヲ挑撥スル言ニ曰下官某陛下ニ告ン某自今陛下ニ服従スルヲ欲セス因テ而後ハ陛下ノ敵タラン故ニ汝チノ臣下ヲ摠テ殘賊セン一惟我カ自在タル亦シト於是テ帝ノ叛臣ト戦フ又外國ノ敵ニ於ルカ如シ
問私戦ヲ為スノ所為如何ナルヤ

答國人私戦ヲナスニ前ノ如キ挑戦ノ言ヲ諸
 都府ニ達シ其ヨリ愈戦ヒノ布告アルニ於テ
 ハ直チニ雙方トモニ大路ニ出テ敵方ノ者ヲ
 見掛ル時ハ少シモ猶豫無、襲撃シ或ハ之レヲ
 掠、或ハ之レヲ殺ス有ト雖モ公然タル戦ヒノ
 如クニシテ更ニ刑戮ノ責ヲ受クルト無シ
 又タ貴族ハ各々或ル都府又ハ他ノ貴族ノ城
 ヲ攻圍スルヲ得其戦ヒヲ發スルニ方ツテ實
 ニ瑣末ノ事ヲ口實トナシタリ其輕舉ノ一證

ヲ言ハンニ或ル一人ノ貴族ノ佛郎克弗爾ト
 云フ都府ニ戦ヒヲ挑ミシトアリ是レハ嘗テ
 此都府ニ住スル若キ一婦人アリ其貴族ノ伯
 父ト共ニ游舞ノ場ニ踊ルトヲ嫌ヒタル故貴
 族其親族ニ對シ不敬ノ所為ナリトシテ都府
 ニ押シ寄セタルナリ
 斯ノ如ク妄動ノ風習アルヨリ日人ノ猛烈ナ
 ル益甚シク自ラ禮義ノ道消シ遷善ノ路塞カ
 ルトトナレリ然レトモ世ニ大炮ノ需用一般

トナリシ後ヲ以テ其前時ニ比スルニ日人殘
暴甚ニ至ラス實ニ大炮ノ恐ル可キ器械タル
ヤ各都府ノ鉄牆石壁ト雖モ之レヲ防ク能ハ
ス是迄防禦ノ利器タリシ劍戟モ今ハ不用ノ
具トナリシ程ナリ

問國人私戦ヲナスノ風俗何頃熄ミタルヤ

答前ノ如ク世上一般ニ大炮ヲ用ヒシカトモ
日國ノ王侯私戦ノ世ニ害アルヲ覺リメキ
シミリアン一世即位ノ後二年ノ國會ニテ此

惡習ヲ廢シ向後私戦ヲ挑撥スル者ハ直チニ
追放ス可シトノ法令ヲ定立セリ

問當時審断局ニ如何ナル進步ヲ得タルヤ

答此頃又々西法里ノ樞密諸院ヲ廢シ後ニ新
タニ二ノ審判院ヲ置キタリ一ツヲインペエリ
エルチヤンブル一ツヲアウリク、コンシルト

言フ何レモ國ノ制令ヲ執行シテ其治安ヲ計
ルモノタリハ日國最高ノ審判院ナリ
問當時ニ於テ重大ノ事件ハ何事ナルヤ

答メキンミリアン一世ノ時代ニ存ツテ最モ
 重大ノ事件トハ即チ薩沙尼ニ於テ路得ト云
 フ僧出テ初メテ別ニ宗旨ノ改革ヲ創メシ
 ナリ路得加特力宗羅馬ヲ斥テ別ニ勸善ノ新
 説ヲ講出シ之レヲ新教ト稱ス速カニ改宗ス
 ル者衆多ニ及ヒ此宗旨改革ヨリシテ起リタ
 ル騷亂ハ最モ恐ルヘキモノニシテ曾テ日國
 王公起シタルモノヨリモ尚烈シク殆ト歐洲
 一般多年ノ禍患ニ罹リタリ

問 宗旨改革ノ起本如何ナルヤ

答 改革ノ本源ハレヲ十世ト言フ法王文學並

ニ四術詩、音樂、畫、彫刻ヲ大イニ勸奨シタル人ナリ

シカ此頃羅馬ニセントペートルスト稱スル

宏大ノ寺院ヲ建立スルトニ專ラカテ盡シ其

成功ヲ遂ケンテドミニツクト言フ社中ノ

僧ヲ日國其他諸國ニ遣リテインジユルゼン

スト号シタル消罪ノ免許状ヲ人ニ與ヘ勸化

シテ金銀ヲ出サシメタルニアリ當初紀元千

ユルバニ十字軍征行ノ戦士ノ賞トシテ
初メテ之レヲ與フ是後人ノ罪障消滅ヲ要
ハル者ニハ法王金銀ヲ取リテ免状ヲ與ヘ
以テ歸正ノ證トナセシカ此事竟ニ宗旨改革
ノ原故ノ一ツトナリタリ

問路得ハ如何ナル人ナルヤ

答路得ハ新教始創ノ開祖ニシテマアウギユフ
スチン社中ノ僧ナリシカ法王ノ免状ヲ私ス
ルヲ怨居タル者ト意見異ナル無ク已ニシテ
已レニ與カスル者實ニ衆多ナルヲ知リ是ニ
至テ慨然トシテ大イニ志ヲ立テ法王ノ免状

ヲ私スルト並ニ尋常教長ヨリ餘分ノ權威ヲ
取ラントシタルトテ斥テ公然ト敵視ノ説ヲ
派布セリ

問新教ノ講說專ラ何地ニ行ハレタルヤ

答新教ノ廣マリタル唯日國ニ止ラス次イテ
泥達蘭及ヒ北方諸國ニ彌リ又數種ノ所風ニ
テ佛蘭西英吉利蘭格蘭ヘモ入り此國々中
ニテ全國盡ク加特力宗ヲ廢シタルモノアリ
又ハ國中ノ人民ノ中ニテ新教ニ固結シタル

皇史 卷五

者アリ又ハ舊教ヲ固守シタル者アリ日國ノ如キハ即チ國ニ新舊ノ二黨アリテ絶エス相讎視シタル故終ニ國々永久憂患ナル戦争ノ基本トナリタリ

問メキシミリアンニ誰カ嗣立セシヤ

答當時皇帝メキシミリアン歿ス其孫查爾斯嗣イテ立ツ之レヲ查爾斯五世ト稱ス已ニシテ外祖父タルカスナイル家非爾難多ニ嗣キテ西班牙王トナリタル君ナリ

問查爾斯五世ノ領地何國ニシテ如何ニ之レヲ獲タルヤ

答查爾斯五世又タ尼達蘭ニ領主タリ今爰ニ其版圖廣遠ヲ極メタル所以ヲ尋ヌルニ已ニ皇帝メキシミリアント皇妃マリイノ間ニ一男アリ之レヲ非立ト云フ曾テ奧地利亞ニ封セラレ西班牙王非爾難多ノ妃依撒伯爾ノ女ジヨンナヲ姫ル非立死シジヨンナ夫トニ代止姑マリイニ由緒アル尼達蘭ヲモ管治シタ

皇史 卷五

主 文部省

皇朝通志
卷五
五

然ルニジョンナハ性質温和可愛ノ婦人ナリ
シカ不幸ニシテ發狂シ政務ヲ執ル能ハス悉
ク其男查爾斯ニ讓ル已ニ查爾斯ハ祖父並ニ
外祖父ノ世嗣ナルヲ以テ曾テ祖父メキシ
リアン殂シタル前九ノ三年ニ立ツテ西班牙
ノ王位ニ登リ且ツ那不勤斯ヲ兼繼セリ
問查爾斯ノ大敵ハ誰ニシテ何故敵對ノ起リシ
ヤ

答查爾斯日國ノ政權ヲ執ルト雖此國ノ帝
位ハ國會ノ選舉ニ依テ定マラル故毎ニ相續ノ
時ニ臨ンテ争ヒ起レリ先是ノキンミアン
殂落ノ時佛王フランシス一世帝位ヲ望ム者
ノ一人タル昔ヲ布告ス然ルニ查爾斯ハ前帝
ノ孫ニテ家系親近且ツ埃國ハ其世襲ノ地ナ
ルヲ以テ已ニ日國ノ一部ニ王タル人ナル故
最モ當然ノ継嗣タレハ竟ニ皇帝ニ選マレタ
ルナリ是ヲ以テフランシスハ其志ヲ遂クル

皇朝通志
卷五

三

那不勤

能ハサルヲ憤リ主選者ノ決議ヲ不快ニ思ヒ
忽チ二君ノ間ニ戦争起リ終身迭ヒニ敵視シ
テ歐洲之レカ為メニ騷亂ノ卷トナリタリ

第十六編

西法里秘密院ノ事

問西法里秘密院ノ建造ハ何頃ナルヤ
答今爰ニ日國ニ法院ノ設ケアリシトヲ語ラ
サルヲ得ス是レハ實ニ可畏物ニシテ秘密ニ
事務ヲ所置スルヲ以テ其後西班牙ニ於テイ

シクハイレイショント言フ裁判所建立ノ時ノ
如ク日國中古ノ間タ喪亂憂苦ニ赴カントス
是レハ即チインクハイレイション創立ノ頃
稍ク衰頹ニ及ヒタル西法里ノ諸秘密諸院ノ
事ヲ言ヒタルモノナリ
或人謂ヘラクス可畏裁判所ノ起本ハ往時
甲利泰甫ノ時ニアリト云フト雖氏其後頭理
公^獅ノ追放ニ方リ其大國許多ノ最小國ニ分裂
シタル頃未タ此裁判所ノ在ルヲ聞カス又

西法里ノ中ニ
在リ且此地
問此裁判所ノ形状如何ナルモノタルヤ
答西法里ノ諸郡ノ中ニ
名付ル裁判所アリテ裁判役ノ正サニ定メタ
ル何レノ會場及ヒ會時ニ集會ス
ノ議員ニ入ル者アル時ハ必ス或ル議式アリ
各會社ノ記號アルヲ以テ社友タルヲ知ル
モ規矩社會其外秘密會社ノ如者ナリ

一其故ハ知ラサレ氏其分裂諸國西法里ノ中ニ
在リ且此地
問此裁判所ノ形状如何ナルモノタルヤ
答西法里ノ諸郡ノ中ニ
名付ル裁判所アリテ裁判役ノ正サニ定メタ
ル何レノ會場及ヒ會時ニ集會ス
ノ議員ニ入ル者アル時ハ必ス或ル議式アリ
各會社ノ記號アルヲ以テ社友タルヲ知ル
モ規矩社會其外秘密會社ノ如者ナリ

モ規矩社會其外秘密會社ノ如者ナリ

各會社ノ記號アルヲ以テ社友タルヲ知ル

ノ議員ニ入ル者アル時ハ必ス或ル議式アリ

ル何レノ會場及ヒ會時ニ集會ス

名付ル裁判所アリテ裁判役ノ正サニ定メタ

答西法里ノ諸郡ノ中ニ

在リ且此地

一其故ハ知ラサレ氏其分裂諸國西法里ノ中ニ

ン社會ノ起原古ニシテ考フ可カラスト雖
モ往時羅馬加特ガ宗ノ僧徒宏大峻ノ寺院
ヲ建立セシト欲シテ大洲ニ其工ヲ勸奨セシ
ヲ友ニ至重ノヲ始メテ政ノ高僧等ヨリ人ノ
ヲ立テ或ハ固習禮式ヲ行フト許レテ規則
ヨリ會社次第ニ利益ヲ行フモトナリテ其
盛大ニ至リ人ノ似テ希ム西ノ耳曼フレニ
イハスニ繼テ其寺院ヲ造ル其後右會社ノ稱
世々相繼テ止ミ國王貴族モ社中ノ加入
貞工ノ事ナリル英國顯理ハ世執政カニ加
スル事トナリル
トフエウマ
社ノ主眼トスル
友ノ保險ヲサスル
他ノ漏泄セサル
會ノ名義起リシナリテ秘密決シテ社中ノ計ヲ

西法里ノ中ニ
在リ且此地
問此裁判所ノ形状如何ナルモノタルヤ
答西法里ノ諸郡ノ中ニ
名付ル裁判所アリテ裁判役ノ正サニ定メタ
ル何レノ會場及ヒ會時ニ集會ス
ノ議員ニ入ル者アル時ハ必ス或ル議式アリ
各會社ノ記號アルヲ以テ社友タルヲ知ル
モ規矩社會其外秘密會社ノ如者ナリ

問裁判所ノ經營如何ニシテ議負ノ職掌如何ナルヤ

答是裁判所ニテハ通例土地ノ領主ヲ長官トナシ下タニ下等ノ裁判役及ヒ書記官アリ加之補助ノ者数人アリ之ヲスコウベント稱フ其職掌ハ罪人ヲ穿鑿シ裁判所へ送出スルナリ誰ニテモ一旦議負ノ列ニ加ル者ハ其廳ノ秘事ヲハ他へ吐露セサルヲ嚴格ニ盟約シ若シ此盟約ヲ破ル者アルニ於テハ苛刻ノ

刑罰ニ處セラル然ルニ未タ曾テ盟約ヲ破壊セシ者アルヲ聞カス

秘密院ノ議負ニナリタル者ハ己レ社中ニ加入セシ事ヲハ縱ヒ妻子近親ノ者ト雖氏語ルヲナシ譬へハ爰ニ人アリ其者ノ兄弟又ハ隣戸ノ者其實ヲ明サスレテスコウベシノ一人タルヲアレ又ク縱令ヒ膳ニ就クノ間ト雖モ人ノ語言動作ニ注思レテ苟且ニ過ルヲナシ其故ハ固ヨリ親族朋友ノ間如何ニ親シク如

何ニ睦クアルトモ其等ノ事ハ論スル能ハス
 都テ此判廳ニ属スル者ハ人ノ罪過ヲ查出ス
 ルトアレハ須臾モ遅延スルト無ク之レヲ長
 官ニ達セサルヲ得サレハナリ其罪人ハ日ヲ
 期シ處コヲ定メ秘密院ノ判吏ノ前ニ送ラレ
 審判セラル、ナリ

問人ノ裁判所ニ召寄セラル、ノ為方如何ナル
 裁判所ニテ審判ス可キ人アルニ於テハ先ツ

夜間ニ本人ノ門戸ニ召檄ヲ貼附ルカ或ハ召
 檄ノ達来ヲ本人ノ了會シ易キ様ニ其路筋ニ
 置ク事ナリ

問本人召命ヲ違背スルニ於テハ如何ナル效驗
 アルヤ

答本人召命ヲ違背スルトアレハ秘密院ノ議
 負總體ニテ穿鑿シ其者ノ捕縛セラルニ於テ
 別ニ審断ヲ為サス直チニ近傍ノ樹木ニ懸ケ
 テ之ヲ殺サントセハ最早其死ヲ免レ難カル

可レ其故ハ年来増加シタル議負數十萬人アルト雖トモ前ニ言ヒタル如ク社中一箇ノ記號アリテ互ヒニ目認シ他ノ者之ヲ辨明スル能ハサルヲ以テ此場ニ臨ミ罪人將サニ逃レ去ントス尺寸歩モ進ムヲ難ル可レトソ
或人ノ説ニ人ノ食席ニ列スル時匕箸ヲ把ル別様ノ方法ヲ以テ議負ノ記號トナシタルアリ之ニ由テ六目シテ同席ニ中ニ幾何ノ議負アルトヲ知リ負外ノ者ニハ其所風ヲ目認

シカタキヲトス
秘密院ヨリ召機ヲ受ケタル者アル時之レヲ私^カ匿^スント欲スル者アルトモ常ニ其事ノ發露セサル無キヲ以テ敢テ之ヲ為ス者ナシ偶^ニ慈仁ノ心アル朋友アルニ於テハ罪人ノ如ク罪ニ落チ同シク召寄セララル、ナリ
問 秘密諸院集會ノ地何レノ場處ナルヤ
答 秘密諸院集會ノ場處ハ隱密ノ地ニシテ潜入ノ徒ニ非ンハ容易ク負外ノ者ノ入ルヲ能

ハス若シ貪知好奇ノ心ヨリ強ヒテ危険ニ陷
ル如キ不注意ノ者アリテ其事ノ發覺スルニ
於テハ直チニ殺サル
爰ニ説アリ秘密院集會ノ地ハ常ニ地下ニ在
リシト按スルニ昔西法里ノ中ニハ其家ノ下
タニ地窖アリシ家屋許多アリ是レハ其目的
ニ用ヒレモノナリサレド秘密院時々廣キ墓
場ノ中ニ集マリ國君自ラ高座ニ着座シ其上
ニ劍ト縛索ヲ置キ高座ノ周圍ニハ各黒衣ヲ

着シ帽ヲ脱シ露首セシ數多ノ書記官アリ又
夕院中ニ引カル、ノ本人罪状分明ナレハ直
チニ縊殺セラル又無罪ニ決スル時ハ院中ノ
見聞ヲ決メ漏泄セサルトノ誓ヒヲ為シタル
上赦免セラル而シテ未タ盟約ヲ犯シタル者有
ラス若シ偶之ヲ破ル者アルニ於テハ必ス死
刑ニ處セラル西法里秘密諸院ノ状體ハ略茲
ニ述ル如シ蓋シ其項日國ノ如キ無道ニシテ
罪惡流行シ法令廢弛シタル國ニ於テハ斯ル

殘虐ノ審漸有ルモ國人ヲシテ深ク畏縮セシ
ムル者有ルカ故ニ却テ有用ナリシナル可シ
然レハ嘗テ之ヲ目撃セシ者モ後來誰一人諸
院ノ事ヲ語ル者ナク或ハ諸院世ニ在ル事ヲ
敢テ暗ニ語スル者スラ無カリシヲ見テモ之
ヲ施行スルノ慘刺ナル以テ想フ可シ
諸院年來西法里ニ會スル外又タ日國ノ諸部
ニモ集ル即チ千六百〇八年ニ方テ諾威爾ノ
ゼルニ一議會アリ縱へ其所務ニ於ルヘエム、

コヲルトニ異ナルト雖モ都テノ訴訟ヲ密カ
ニ所置スルヲ以テ議會ノ形状ハ之ト大同小
異ナリ毎州何地ニテモ罪科ノ條件漸次ニ増
益シテ最早議會ヲ集メテ可ナルノ期ナル時
ハ或ル官府ヨリ召檄ヲ投シ定期ヲ待テ居民
悉ク議會ノ前ニ出席セリ
諸居民ハ斯ル不條理ノ召檄ヲ憚ハスシテ定
マリタル場處ニ到ル集會ノ地ハ平野ノ如ク
廣袤ノ地ニテ中央ニ長机幾多ヲ設ケ上ニ其

國ノ領主及ヒ衆多ノ判吏列坐シ庶民ハ大地ニ平伏シ何人ノ罰セラル、ヤ又何等ノ事状ナルヤヲ知り得ルモノナシ此時判吏ハ罪人ノ姓名ト罪ノ科條ヲ記シタル書ヲ國主ニ渡シ而判吏手ニ白色ノ杖ヲ以テ罪人ノ中ニ回リ其ヲ有罪人ニ觸レハ別ノ告諭ナクトモニ十四時ノ中ニ其國ヲ放逐セシムルナリ此策杖ニ觸レタル人ハ其躬ニ大罪ヲ負フ者ナレハ前ノ如ク速カニ此場ヲ退去スルヲ宜

ロシキ為方トス其故ハ若シ判吏本人ノ罪状ヲ慥ニ知ルニ本人尚策杖ノ暗諭ヲ解セスレテ此所ニ留リ居時ハ直ニ^ナ縊殺セラル、ナリ又タ策杖ノ觸ル、ヲ受テモ本人ノ心情潔白ナル者ハ固ク拒ンテ無罪ヲ證スルヲ得ルナリ若本人追放ノ如キ重刑ヲ被ル程ノ重罪ヲ犯サレハ策杖ノ輕ルキ觸レニテ爾後其者ノ行状ヲ改ム可キヲ論セシモノトス

グロンスウキ
下薩
沙尼
ノ中秘密院ノアル所ロニ

卷五
三十

テハ居民ノ中其餘ヲ監督シテ判司ニ忠告ス
 可キコトヲ密カニ命セラレタル者アリ
 且斯ル不快ノ裁判後ニ命セラレタル者ヲ誰
 モ知リタル者ナレ然ルニ集會ノ決定スルマ
 否ヤ其都邑ノ関門ヲ悉ク閉シ巷閭ヲ嚴シク
 警固ス時ニ打鐘ヲ聞クニ於テハ居民ハ秘密
 院審判ノ地ナル市場ニ行カサルヲ得サルコト
 ヲ知ル又時トシテハ秘密院ノ判司己ノ親友
 ノ常ニ惡事ヲ犯スル習風アルヲ見レハ其人

ノ戸口ニ諭示ノ記號ヲナス然ルニ尚惡行止
 メサルニ於テハ議會ノ前へ召寄ラル、ナリ
 而法里ニ於テハ友愛ニ出タル斯ノ如キコト有
 ルヲ聞カス
 秘密諸院ノ權力次第ニ盛大ニ至リフレデリック啡哩特三
 世ノ代ニハ既ニ帝ヲモ亦院前ニ呼出サント
 セシコト有當時判司ノ威權アル以テ證スヘシ
 問秘密院ノ權力ノ衰ヘシハ如何ナルヤ
 答メキレミリヤン善良ノ法律ヲ作興シタル

ニ依テ秘密諸院多ク權威ヲ失ヒ從テ人ノ之ヲ畏懼スルヲ止ミタリ

問 秘密院ノ世ニ断エタルハ何項ナルヤ

答 秘密院查爾斯五世代ヨリ以後ハ世ニ聞ス

第十七編

查爾斯五世ノ事

從紀元千五百十九年至千五百五十六年

查爾斯五世ノ世ニ聲名ノ高カリシハ全ク軍事

ヲ處スル上ニアリテ又他ニ非ス縱ヒ其名史中

ニ著キ者ト雖モ終身日國ノ事務ニ於テハ大小

諸國宗旨ノ争鬪ニ関シテ別段須要ノ事ナシ

問 新世界ノ中查爾斯五世ノ所屬ハ何地ナルヤ

答 查爾斯五世繼承ノ大所領ノ中亞墨利加

於テ新檢出ノ國々アルヲ知ル可シ是レハ

ウヌスト、インシイス 北半島ニ於テフロリダノ

ニウラノ灣ニ抵ル 海岸ヨリ南半島ノグエチシ

印度ノ部分ニ列スルヲ以テ閩龍初メテ此地東

ク即チ西印度ト云フ意ナリ名ナリ其後勇敢ノ

聞エアル二人ノ西班牙人ピナル口及ヒコル

テスナル者ベエルウ及ヒメキシコノ二大國

ヲ伐ツテ之レヲ併セタリ

問 查爾斯五世ハ全ク日國ニ主タルヤ

答 查爾斯五世位ニ即カサル前ニ其國ヲ支配スルコトノ處置ニ就キ國內ノ貴族ト或ル固キ約條ヲナシタルコトアリ上下ノ間ニ斯ル事ノアリタル故ハ素ト查爾斯西班牙ニ於テハ全主トシテ權威限界スル所ナシト雖モ日國ニ於テハ其權ノ節制スル所無キヲ得サレハナリ
問 改宗徒如何ナル進步ヲ得タルヤ

答 當時薩沙尼ヲ始メ其他ノ國々ニテモ大約新教ノ設立アリ且ツ是ヨリ先キ既ニ舊教ノ僧尼等自ラ修道ノ庵堂ヲ退去シテ再ヒ俗間ニ出テタリ此ノ如ク歸正ノ徒ノ多カリシ所以ハ全ク彼等或ル國ニ於ル如ク虐ク驅逐セラレサルニ由レリ

問 皇帝宗旨ノ改革ヲ發勵シタル人タリシヤ
答 否ナ皇帝ハ改革ニ意無キ人ユエ恐クハ改革ノ進步ヲ憚ハス却テ之ヲ阻ミタルナラン

然ルニ其事ヲ遂クル能ハサルハ全ク教師路
得頃刻モ說法ヲ急ラス改宗スル者日ニ増シ
月ニ加ルニ至リ又己ニ強大ナル列侯ノ之ヲ
信スル者アリテ大イニ路得ヲ守護シタレハ
ナリ

問皇帝何ニ託言シテ佛王ヲラシニス一世ト争
端ヲ開キシヤ

答查爾スト佛王トノ争鬪ノ原由ハ全ク以太
利ノ中ニアル或領地ノ事ニ就キテ發リタル

ナリ嗚呼人ノ争鬪ヲ釀サント欲スルヤ互ニ
之レカ瑕疵ヲ指摘シテ口實ト為スノ容易ナ
ルニ由レハナリ

問此争鬪ノ發リシニ付キ兩君ニハ誰ノ援ヲ得
ント欲シタルヤ

答二君ノ専ラ競フテ援ヲ得ント注目タル人
ハ他ニ非ス其頃強大國君ノ一人タル英吉利
王顯理ハ世ナリ故ニ二君共ニ顯理共ニ執政
カレシナール僧官ウラルセイノ意ヲ得ン

皇朝通志 卷五 三言 英吉利

ニ焦思セシトソ
 問二君英王ノ愛好ヲ得ントテ如何ニ競ヒシヤ
 答查爾斯ハ自ラ英國ノ宮中ニ候問シテ百方
 足奉シ又フランシスハ貴族并ニ其夫人等ヲ
 伴ナヒテ英王ノカレエス佛國ニ渡來ノ時ニ最
 羨ノ饗應ヲ設ケテ款待ヲ盡ス是ニ因テ英王
 ノ方ニテモ佛人ニ遇スル甚タ厚ク燦爛タル
 金布ノ野ニテ會ス故ニ世人之レヲ稱シテ錦
 野ノ會ト名付タリ

問二君ノ戦争ヲナシタルハ何地ナルヤ
 答英王顯理ハ雙方ノ國君ニ對シ共ニ禮貌ヲ
 失ハス又深ク之レニ関涉セス於是テカニ君
 竟ニ戦争ヲ發シ專ラニ以太利ニ於テ争鬪セ
 シカ殊ニ希楯得ノ戦ヒハ最名高ク此戦ヒニ
 フランシス擒ラレ馬德里西班牙ニ送ラレテ二
 年ノ間幽囚セラレタリ
 問查爾斯フランシスノ戦争中如何ナル事件ノ
 起リシヤ

答此戦争殆ント終ントシタル頃土耳其ノ國
 王ソリイメンマクニスナル者恒加利ニ入寇
 シテ歐洲ノ土國ヲ防クニ関鑰ノ地ナルベル
 グレツドノ内タニウアヲ取ツテ自ラ之ニ主
 タリ又ナイツ、ラス、セント、シヨンヲフ、ゼルヤ
 レエムト稱スル驍騎黨ヲ伐ツテ同ク歐洲ノ
 干蔽タルロヲドス島ヲ取リシ故ツリメン今
 ハ歐洲全國ノ強敵トナリタリ
 問驍騎黨此損失ノ償トシテ何地ヲ得タルヤ

答皇帝深ク驍騎黨ノ損失ヲ恤ミ之レニ償フ
 ニモルタ地中海ノ小島ヲ與ヘ其後之レヲモルタノ
 ナイツト呼ヒタリ
 問土耳其人次キニ入寇セシハ何國ナルヤ
 答其後土王ソリメン大軍ヲ率井直チニ墺地
 利ニ来リ到ル處縱マ、ニ殘虐放火セサル無
 ク土地之カ為メニ大イニ荒廢ニ及ヘリ
 問土軍如何ニ追卻セラレタルヤ
 答日國ノ貴族是追奮教カトリック新教プロテスタント

故ヲ以テ互ヒニ相敵視スト雖モ當時ノ外敵
土人ノ入寇ヲ怒リ都テ私怨ヲ棄テ互ヒニ力
ヲ戮ヒ邪宗ノ徒ト戦ハントシタル故軍勢怒
チ數萬ト為リ帝自ラ之レニ將トシテ出征セ
シカ固ヨリ帝モ土王モ輕シク危險ノ戦ヒヲ
ナサズ頓テソリメンハ其軍ヲ纏フテ退去シ
一時ノ間日國塗炭ノ患ヲ免レタリ

問皇帝宗旨改革ノ進歩ヲ如何ニ專ラ抑ヘント
シタルヤ

答查爾斯ハ當時止戦ノ間ニ自由都府ノ中多
クハ舊教ノ宗風ヲ變シ漸次ニ路得ノ風ニ化
セラル、ヲ見テ大イニ驚キ夫ヨリ宗旨ニ関
スル國事ニ注思シ舊教ヲ回復セント欲シ新
教ノ説述ヲ拒クノ命令ヲ布告セリ
問^{プロテスタント}波羅持士ト稱スル言ノ原故ハ如何ナルヤ
答前ノ命令ヲ人ノ知ルニ至ルヤ否ヤ第一薩
沙尼ノ主選者ルユ子ングルグ公其他諸公等
十四箇ノ自由都府ノ名代人ト共ニ帝ノ親ラ

上席シタルアフギユスブルグノ國會ニ出テ上
書シテ此命令ノ不是ナルヲ明辨シタル故
此ニ於テ始メテ新教ノ徒波羅特士ノ名ヲ命
セリプロテスタントハヨシキラステタシキカヘル棄邪歸正ノ説ヲ明辨ス
ル意ナリ此國會ニ於テ讀上ケタル新教徒ノ
公告ヲアフギユスブルグノコンフェレンスト
稱ス

查爾斯ハ縱ヒ兵カヲ以テモ諸列侯ヲ我説ニ
従ハシメント意料シ列侯等ハ迭ヒハ守護ノ

タメニ既ニ同盟セシカ圖ラス土人トノ騷擾
起リ帝之ニ關スル事トナリタル故注思スル
所又變リシナリ

問 バルバロツサハ如何ナル人タルヤ

答 バルバロツサハアルシイル王ナレド海賊
ノ醜名世ニ高ク且ツチユニイスノ王位ヲ篡
奪シ正統ノ國王ムウリイヘツサンヲ追放シ
タル逆賊ニシテ土王ソリメン船隊ノ總督ニ
登用シタル者ナリ

地中海ノ近傍ナル耶蘇宗諸國ニテハ惟此巨
 賊ノ名ヲ聞クノミニテモ各畏怖セサル無シ
 尚土王ノ寵スル實ニ厚ク舉ケテ以テ船將ト
 ナシタル故賊ノ勢ヒ愈熾シニ日ニ驕傲ヲ増
 セシトナリ
 バルバロッサ兇惡更ニ休セズ常ニアレキサ
 ンドリヤ其他諸港ヘノ通商船ヲ掠奪シ乗船
 ノ人ヲ執ラヘテ悉ク奴隸ト為スニヨリ諸民
 之レヲ憂ヘ皇帝ノ許ヘ屢歎訴ニ及ヒタリ

問查爾斯如何ナル大業ヲ起シ已レノ聲名ヲ増
 シタルヤ

答查爾斯ハ已ニ土人ノムウリイ、ヘエサンヲ
 禍患ニ陥入レシヲ憤リ且ツ暴賊ノ亂妨ヨリ
 宗徒ノ高買ヲ救助セント欲シ奮激シテ竟ヒ
 ニ強大ナル船隊ヲ率井チユニイスニ向テ出
 帆シ第一戦ニバルバロッサヲ敗リムウリイ、
 ヘエサンヲアルシイルノ王位ニ復シ且ツ嚮
 ニ執ハレテ賊手ニ落タルニ萬有餘ノ宗徒ヲ

救テ其拘束ヲ解キタリ此事甚々顯明ノ事業
 ニシテ摠テ教化國ノ中ニ查爾斯ノ名譽ヲ高
 ウセリ此時ニ方テ查爾斯ノ無リセハ患難ニ
 罹リタル歐人殘暴ナル人民ノ中ニ一生奴隸
 ニテ終ラント必然ナルニ斯ル困厄ヲ救ヒ各
 ヲ其家ニ返シ再ヒ家族ノ對面ヲ得セシメタ
 ルハ實ニ有功ノ戰爭トス可シ然ルニ帝歸國
 ノ後又フランシストノ戰爭發セシカ此戦ヒ
 ハ惟二王ノ妬心ニ出テ畢竟無名ノ軍ニシテ

數多ノ人命ヲ落シ良田沃野ヲ荒廢セシノミ
 ニテ世ニ益ナク己ニシテ他ノ王侯等ハ之レ
 ニ關セサリシカ遂ニ羅馬法王ニ君ヲ勸解シ
 テ媾和セシノ稍ク外國ト和親整ヒタレハ帝
 是ヨリ内治ヲ計ラントテ國中新舊兩派宗徒
 ノ不和ヲ定治セントニノミ注思セシトナリ
 問曰國ノ治安ニ復セシハ如何ナルヤ
 答皇帝前ノ目的ヲ以テ國中ノ王侯等ニ令シ
 テ新舊二教ノ中各其好ム所ニ任セ採用ス可

キ自由ヲ與ヘ且ツ人民ノ之レヲ嫌フ者ハ其
同意ノ國ニ行キテ隨意ニ居住スルヲ得セシ
メタリ如此新舊兩派ノ宗徒各信スル所ノ宗
旨ニ從フノ允許ヲ同時ニ得タル故同ク國ノ
宗旨トナリテ彼我ノ差別ヲナサストモニ黨
外ノ事ニ關スル能ハサルトナリタリ

問恒加利ト波希米亞トノ戦争何故起リシヤ

答此ノ變革ノ前恒加利ニ大騷亂起レリ此處
ニシヨシトセボリイト云フ貴族アリシカ曩

キニ恒波二國ノ王タル皇帝ノ弟フエルシナ
ンドヲ廢シテ其位ヲ奪ヒタルヲ以テ二國之
レカ為メニ大ニ擾亂セリ

問及逆人ヲ助カシタルハ誰ニシテ又何故ナル
ヤ

答シヨシヲ助テタル者ハ即チ土王ソリイメ
ンニシテ曾テシヨシ之レカ臣下タラントヲ
承約シ土人は是レニ由テ恒國ヲ自由ニ經過シ
得タル故利スル所少カラサリシトナリ

問土耳其人ノ得タル利益如何ナルヤ
 答ヨシ土人ノ助カヲ得ルト雖モ不幸ニシ
 テ早ク死シヨシヨシイスマシト云フ幼
 年ノ男兒アリシカ土人陽ニ之レヲ輔翼シテ
 尚先業ヲ續カシムルト雖モ陰ニ恒國ノ過半
 ヲヲトマン土國ニ併セ幼主ハ有レトモ無キカ
 如クニシテ其實ハソリノ其國ニ主タリ
 土人日國ニ入寇シ甚々猛烈殘虐ノ戦争ヲナ
 シ婦女童幼ヲ虜略シ以テ奴隸トナシ日人ノ

禍患ニ罹ル實ニ恐ル可キトス土人初メ恒
 國ニ入寇セシカ屢々壤地利ニ侵擾シ已ニシ
 テ都府維也納ノ城門迄攻メ入りタリ然ルニ
 當時此都府ノ防禦堅固ナラス周壁都テ破壊
 シ且ツ外郭甚々疎廣ナルヲ以テ敵ヲ防クニ
 最モ便ナラサリシナリ
 問宗派ノ戦争再ヒ發リシハ如何ナルヤ
 答新舊二宗貴族ノ和親永續セス往時皇帝力
 ヲ盡シ和平ノ功ヲ得タリシカトモ今又帝自

ラ之レヲ破リ新宗ヲ禁制シタル故ニ忽チ戦
争再起セリ
問此戦争ノ間薩沙尼ニ何事ノ起リシヤ

答此戦争ノ間薩沙尼ノ主選者啡哩特ハ才智
衆ニ出固ク新教ヲ維保スル者ノ一人ナリシ
カ帝ト戦ヒ其軍敗績シテ王師ニ擒セラレ帝
其所領ヲ没収シ當時ノ史乘ニ著明ナル彼ノ
薩沙尼新侯モリイスニ與ヘタリ
啡哩特敗軍ノ後直チニ帝自ラ將トシテ薩沙

尼諸國ノ摠都ウ井テンブルグノ城門ニ進ミ居
民ニ降服ヲ命セシカ領主ノ夫人剛氣ノ女性
ニシテ更ラニ屈スル色ナク衆ニ令シテ飽マ
テ敵ヲ防キテ都府ト存止ヲ共ニセントヲ以
テス帝婦人ノ斯ル決心アルトヲ聞クヨリ世
モ寛大ノ心ナク若シ婦人城門ヲ閉シ謝罪ニ
及サルニ於テハ汝チカ良人ノ頭ヲ刎ス可シ
ト言ヒ遣シ遂ニ一城ヲ轆轤シテ都府ヲ奪ヒ
取リタリ

問新教ノ權如何ニ再ヒ保護セラレタルヤ
答新主選者モリイスハ堂兄啡哩特ノ權職ヲ
讓ヒシカ直チニ已レテ擢舉シタル皇帝ニ對
シ又叛逆ヲ企テ之レト戰フテ屢々勝利ヲ獲
遂ニ帝ヲ強ヒテインテリイムト稱スル新教
保護ノ條約書ニ款印セシメタリ
查爾斯五世ノ西班牙荷蘭ヲ統治シタル事ハ
未タ説キ及ハサレトモ帝ノ二國ニ主タルヲ
ハ讀者須ク之ヲ記スヘシ此ノ如ク多事ナル

國君ノ代ニ在リタル日國ノ重事ハ略前ニ述
タル如クニシテ今惟爰ニ遺リタルハ次ノ一
事トス

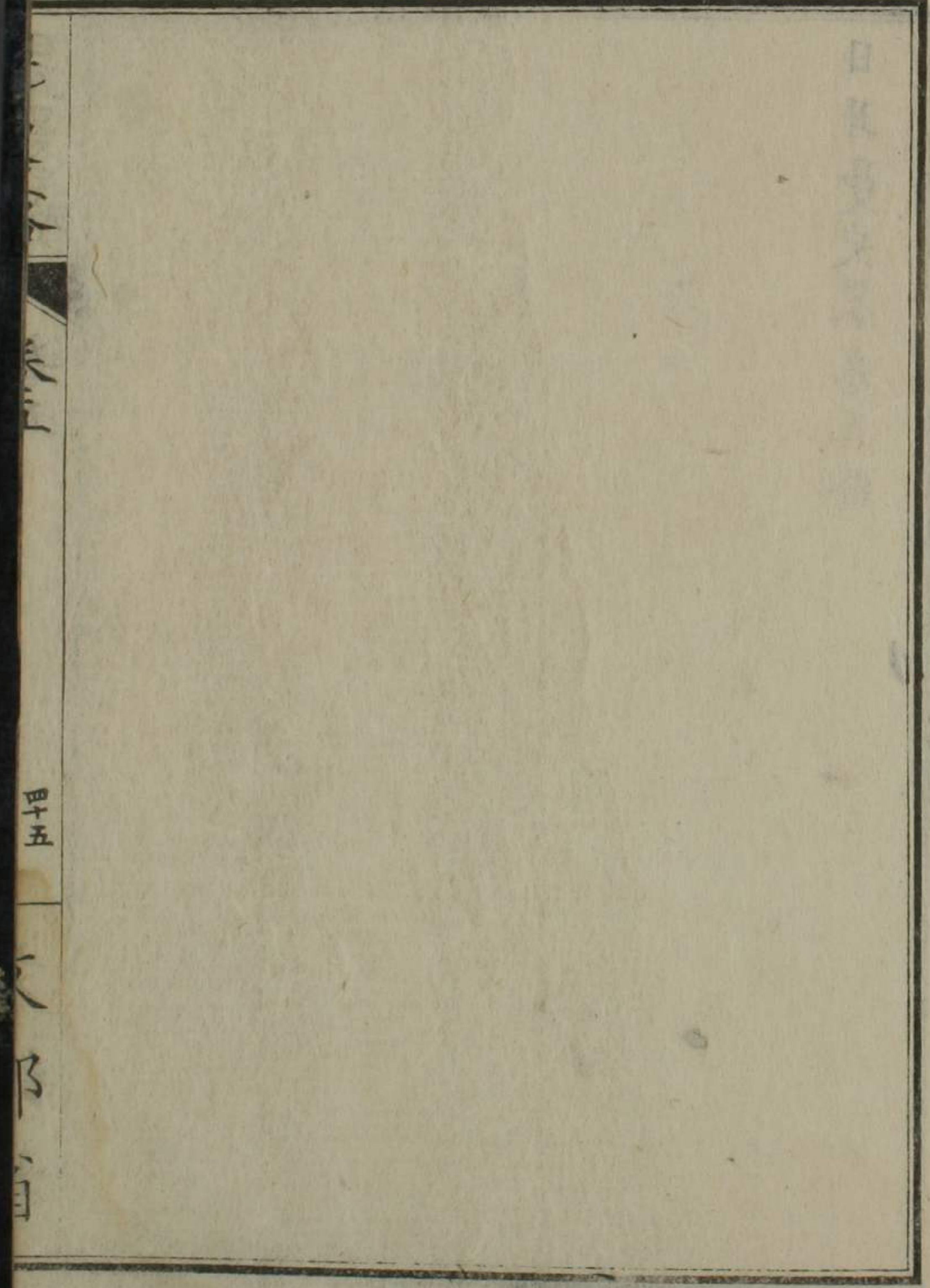
問查爾斯五世ノ世如何ニ終リシヤ
答皇帝其所括甚々大ナルヲ以テ年老イ勞ヲ
厭ヒ將サニ閑院ニ隱栖シテ以テ晩年ヲ送ラ
ントシ其子非立已ニ英國女主馬利ノ婿トナ
リ其國ニ在ルヲ迎ヘテ之レニ讓ルニ日國ヲ
除キ其他總テノ領地ヲ以テス是ヨリ先帝ノ

弟フェルジナンドハ羅馬王ニ選マレタルヲ以テ
勿論皇帝ニ選マレ可キ身柄ノ者タルユヘ日
國ノミハ非立ニ與ヘサリシナリ

問查爾斯五世晩年ヲ如何ニ過シ且ツ何年ニ殂
シタルヤ

答查爾斯五世自ラ寶位ヲ辭シ西班牙ノ内ナ
ル或ル寺院ニ退隱シ讓位ノ後二年紀元千五
百五十八年ニ殂ス

市川清流 校



日耳曼史畧卷五終

